

平成28年9月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年9月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいるようお願いいたします。

8月21日に幕を閉じたリオデジャネイロ2016オリンピックでは、女子レスリング58kg級に出場した八戸市出身の伊調馨選手が金メダル4連覇を果たしました。五輪女子競技では史上初の偉業となり、八戸市民はもちろん、日本全国に感動を与えてくれました。

伊調選手には、青森県民栄誉大賞と八戸市市民特別栄誉大賞が贈られます。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 9月号 レポート

平成28年8月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	八戸市総合保健センター基本設計概要を公表

【産業】

No.	項目
2	2015年青森県農水産物輸出額 過去30年で最高
3	青森県内の時給最低賃金716円へ 上げ幅過去最大に

【地域】

No.	項目
4	八戸三社大祭開催 ～街全体が極彩色に～
5	水産科学館アリエントで 北限の海女と南部ダイバーが“共演”
6	青森県内 I T 関連企業による出前講座が活発
7	「山の楽校」のヒマワリ 台風に負けずに花咲く
8	種差小で出前授業 「津波から命を守るには」
9	旧中野小の名物行事「熱気球教室」6年ぶりに復活
10	「健康寿命アップキャンペーン」開催 健康づくり推進に向けPR活動
11	岩手・八幡平の親子連れが 八戸で“海の街 体験ツアー”
12	八戸港の魅力紹介 「八戸工場大学」開講
13	御引八幡宮と八工大 境内装飾、商品開発で連携
14	八戸と盛岡で食の祭典 「The Best of グルメツアーズ」9月1日開幕
15	全国物理コンテスト 八戸高の野口さんが見事銅賞受賞！

【文化・スポーツ】

No.	項目
16	県無形民俗文化財「加賀美流騎馬打毬」若き2騎士が初陣
17	「全国スポーツ流騎馬（やぶさめ）八戸大会」開催
18	ご当地イカ料理コンテスト 「泳ぐ！？イカのヌーディングヨーザ」が最優秀賞
19	向陵・千葉バトン部合同チーム 全国高校総合文化祭で最高賞！
20	八戸学院光星 東邦（愛知）に9-10でサヨナラ負け
21	五輪女子競技で史上初 伊調馨4連覇！！
22	伊調馨選手に市民特別栄誉大賞授与へ
23	「これかわ縄文まつり」開催 火おこしや土器作り体験に挑戦
24	八工大生 「南部裂織」未来へ伝えようと新工法に取り組み

【行政】	
記事	概要
八戸市総合保健センター基本設計概要を公表	
(1)	八戸市が2020年4月の供用開始を目指して整備する「(仮称)市総合保健センター」について、市は基本設計の概要を公表した。現時点で、建設にかかる概算工事費は約51億7千万円、約3万3千平方メートルの土地取得にかかる費用などを含めた総事業費は約75億円と試算。景観や市民の利便性に配慮した構造とし、保健、医療、介護などの機能を集約した施設を目指す。

【産業】	
記事	概要
2015年青森県農水産物輸出額 過去30年で最高	
(2)	日本貿易振興機構(ジェトロ)青森貿易情報センターが、2015年の青森県貿易概況を発表した。農水産物の輸出額は前年比25%(39億円)増の194億8500万円、過去30年で最高。品目別に見ると、リンゴは前年比25.7%増の87億688万円、過去最高、木材などを含めた農林水産物の輸出額は前年比35%(64億3900万円)増の248億4200万円、県が18年までの達成を目標としていた年間210億円を上回った。
青森県内の時給最低賃金716円へ 上げ幅過去最大に	
(3)	青森地方最低賃金審議会は8月23日、青森労働局に対し、青森県内の時給最低賃金を現行から21円引き上げ、716円とするよう答申した。安倍政権が掲げる最低賃金3%増の賃上げ要求などを踏まえ、現行方式となった2002年度以降、過去最大の上げ幅を記録した。近年は賃金引上げが続いており、答申通り決定すれば4年連続で2桁の上げ幅となる。

【地域】	
記事	概要
八戸三社大祭開催 ～街全体が輝彩色に～	
(4)	青森県南地方最大の夏祭り、八戸三社大祭のメインイベントとなるお通りの合同運行が8月1日に行われた。神明宮、籠、長者山新羅の3神社の神輿行列と、豪華絢爛な27台の山車が八戸市中心街を練り歩き、沿道に詰め掛けた市民や観光客を魅了した。街全体が輝彩色に包まれ、歴史絵巻の舞台と化した。最終日の4日には、八戸市庁前広場と市中心街を会場に後夜祭を実施。ライトアップされた山車が今年最後の雄姿を披露、祭りのフィナーレを飾った。
水産科学館イベントで 北限の海女と南部ダイバーが“共演”	
(5)	八戸市水産科学館イベントの大水槽で8月13日、「南部ダイバー」と「北限の海女」、アオウミガメが共演した。「夢の共演!海女&南部ダイバー参上!」と銘打った企画。若手県立種市高海洋開発課3年の中塚猛文さんが南部ダイバー、久慈市の「北限の海女観光PR隊第1号」を務めていた根井理帆さんが海女として、同館で飼育されているアオウミガメの「みらい」、「げんき」と触れあった。夏休み中の子どもが、普段は見ることのできない潜水の様子を興味深そうに観察した。
青森県内 I T 関連企業による出前講座が活発	
(6)	青森県内では、県の委託を受けた地元の I T 関連企業による出前講座が活発になっている。I T 関連企業は近年、県内でも立地や進出が進んでおり、こうした講座は業界への理解を深め、地元就職を促進する狙いなどで進められる。教育分野以外の事業だが、生徒にとってはプログラミング教育の一端に触れる絶好の機会となっている。ソフト開発などを手掛ける八戸市のジーアイテックは7月下旬から8月上旬にかけて、八戸工大二高で3日間の出前講座を行った。同校で「情報」の授業を担当する教授は、「今の世の中の根幹を成す技術。システムの理解を深めることで、うまく活用していけるようになるのでは」とプログラミング教育の導入に期待している。

	<p>「山の楽校」のヒラクリ 台風に負けずに花咲く</p> <p>(7) 8月17日に青森県に最接近した台風7号の被害を受けた八戸市南郷の「山の楽校」のヒラクリが、倒れたまま花を咲かせ始めた。200万本のヒラクリは17日の台風でほとんどが根元から倒れたが、18日には多くがそのままの状態の花を咲かせ、中には少し起き上がったものもあつた。岩崎光宏楽校長は、「災害に負けないヒラクリの強さを見てほしい」と話している。</p>
	<p>種差小で出前授業 「津波から命を守るには」</p> <p>(8) 八戸市の種差小は8月23日、東京大学の佐藤慎司教授による防災出前授業を同校で開き、2年からは6年生までの全校児童20人が、津波の仕組みや命を守るための知識を学んだ。同校は本年度、海洋政策研究所の「海洋教育パイオニアスクール」助成を受け「①海に親しむ②海を知る③海を守る④海を活用する」取り組みを進めている。出前授業は「海を知る」学習の一環。佐藤教授は、津波という言葉の由来や、海溝型地震と津波発生メカニズムなどをスライドを用いて分かりやすく説明。津波から身を守るには堤防を造ることと、逃げることの両方を併せた「総合的な防災」の考え方が重要だと強調した。</p>
	<p>旧中野小の名物行事「熱気球教室」6年ぶりに復活</p> <p>(9) 今年3月に閉校した八戸市南郷の旧市立中野小で、名物行事だった熱気球体験搭乗が、8月20日、6年ぶりに復活した。旧中野小では、子どもたちに伸び伸びとした学習の場を提供することを目的に、1999年から7年間「熱気球教室」を開催。その後市民を交えた「熱気球まつり」に衣替えし、南郷野球場を会場に2010年まで続いた。「熱気球回窓会」と銘打った催しは、往時を懐かしむ有志が企画。同校の卒業生や市立南郷小の児童ら約200人が旧中野小のグラウンドに集まり、空中散歩を楽しんだ。</p>
	<p>「健康寿命アツギキャンペーン」開催 健康づくり推進に向けPR活動</p> <p>(10) 八戸市と青森県看護協会まちの保健室は、8月21日に「はっち」で「健康寿命アツギキャンペーン」を開き、健康づくり推進に向けたPR活動を展開した。会場には、健康相談や血圧、血管年齢を測定するブースが設置されたほか、歯や口腔の健康に向け、よくかむことを促す「カムカム簡単レシピ」を紹介。会員が考えた「アツギーのしらすのせ」や「たこのトキト煮」の試食を提供し好評を得た。</p>
	<p>岩手・八幡平の親子連れが「八戸で“海の街 体験アツギ”</p> <p>(11) 太平洋沿岸地域の風土や環境、海の魅力に親しもうと、内陸にある岩手県八幡平市の親子連れ35人が8月21日、八戸市を訪れ、普段触れる機会が少ない海沿いの体験を満喫した。午前中に種差少年自然の家に着。雨天のため屋外の体験は見送られたものの、貝殻アート制作や八戸市水産科学館アリエントの見学、船での八戸港内遊覧などを楽しんだ。企画した八幡平市の五日市振興協議会は、「互いの地域を知り、交流を深めるきっかけにしたい」と期待している。</p>
	<p>八戸港の魅力紹介 「八戸工場大学」開講</p> <p>(12) 工業都市・八戸市にある工場群を文化観光資源として捉え、アートの視点から魅力を再発見する「八戸工場大学」が8月25日にスタートした。4年目となる今回は工場や工業を支える「物流・輸送」がテーマ。八戸市美術館で行われた初回の講義には、市民ら32人が参加し、海外の貿易港と結ばれる八戸港の強みや魅力などを学んだ。今後、計6回の講義で「高周波铸造」や「八戸臨海鉄道」「北日本造船」を取り上げるほか、コンクリートで小型の消波ブロック模型を作るワークショップなども行う。</p>
	<p>櫛引八幡宮と八工大 境内装飾、商品開発で連携</p> <p>(13) 八戸市の櫛引八幡宮は本年度、八戸工業大感性デザイン学科と連携して境内の装飾や商品開発に取り組む。櫛引八幡宮が名前の由来となっている土産品の八幡馬を大学の授業の題材としていたことが縁で、今回の連携につながった。大学からは2、3年生が参加。今後、境内に八幡宮を模した大型のオアジエを制作し、伝統を取り入れたデザインの新土産品開発にも取り組む。神社の宮司は「神社は建物や絵などその時代の最高のものが集まり今の形になっている。新しいものも取り入れ、未来につなげたい」と挑戦の狙いを説明する。</p>

	<p>八戸と盛岡で食の祭典 「The Best of グルメツアーズ」9月1日開幕</p> <p>八戸市内の飲食店を中心とした“食の祭典”「The Best of グルメツアーズ」が9、10月の2カ月間にわたり開催される。八戸市の33店と盛岡市の8店が参加し、9月1日から10月31日まで、地場産品を用いたメニューを統一料金で提供する。コース料理は3300円、ランチは1300円（税込み）。期間中は対象メニューを注文した客が、味付けや接客、店内の雰囲気などを評価。その結果に基づき、参加店を表彰する。アンケート回答者の中から抽選で計150人に、ホテル宿泊券や食事券などの賞品をプレゼントする。</p>
(14)	<p>全国物理コンテスト 八戸高の野口さんが見事銅賞受賞！</p> <p>NPO法人物理オリンピック日本委員会の全国物理コンテスト「物理チャレンジ2016」で、八戸高3年の野口裕一郎さんが県内で初めて銅賞に輝いた。コンテストは高校生以下が対象で、全国から1851人の参加申し込みがあった。7月の第1次チャレンジを通過した103人が、千葉県で8月19～22日に開かれた第2次チャレンジに進み、実験や理論問題に挑戦。金賞6人、銀賞と銅賞各12人が表彰された。受賞した野口さんは「自分の世界が広がった。大学に進み、素粒子の研究をしたい」と、物理学者を志す、将来への思いを強めた。</p>

【文化・スポーツ】

	概要
	<p>県無形民俗文化財「加賀美流騎馬打毬」若き2騎士が初陣</p>
(16)	<p>八戸三社大祭中日の2日、長者山新羅神社「桜の馬場」で県無形民俗文化財の「加賀美流騎馬打毬（だきゆう）」が行われた。素襖（すおう）という武士の装束をまとった騎士たちが4騎ずつ赤白に分かれ、先端に綱のついた毬杖（まりづえ）で毬をすくい上げ、自軍の毬門（ゴール）に先に4球投げ入れた軍の勝利となる。今年は8年ぶりの新人騎士、高野隼さん（白山台中2年）、板橋誠治君（城北小16年）の2人がデビュー。ベテラン騎士に交じって懸命に毬を追いかけ、観客たちから盛んな声援を浴びた。</p>
(17)	<p>「全国スポーツ流鏑馬（やぶさめ）八戸大会」開催</p> <p>騎手が疾走する馬上から矢的的を射る技を競う「全国スポーツ流鏑馬（やぶさめ）八戸大会」が8月11日、櫛引八幡宮で行われた。全長約150メートルの馬場を疾走しながら、55メートル間隔で設置された三つの的を馬上から狙い、射抜いた的の合計点で競う。3人の騎士が同時に駆けける「団体戦」は2回、一般の部と上級の部からなる「個人戦」は3回ずつ行われた。小学6年から60代までの男女22人が参加し、人馬一体となった勇壮な騎射姿を披露した。八戸市では、奉納行事としての流鏑馬は行われているが、競技として大会が開かれたのは初めてとなる。</p>
(18)	<p>ご当地イカ料理コンテスト「泳ぐ！？イカのスーパーギョーザ」が最優秀賞</p> <p>第3回ご当地イカ料理コンテストが8月10日に「はっち」で開かれ、八戸調理師専門学校に通う佐々木真さん(27)が考案した「泳ぐ！？イカのスーパーギョーザ」が最優秀賞に選ばれた。62点の応募があり、書類審査を通過した19点から、試食審査で入賞が選ばれた。スーパーギョーザは、イカの形にしたイカ入りギョーザをスーパに浮かべ、海を泳いでいるかのように仕上げた。佐々木さんは「鍋の中でギョーザを煮立てているときは本当に泳いでいるようで、子ども喜んで手伝うと思う」と話した。入賞作のレシピは市のホームページなどで公開される。</p>
(19)	<p>向陵・千葉バトン部合同チーム 全国高校総合文化祭で最高賞！</p> <p>広島県で7月30日～8月3日に開催された第40回全国高校総合文化祭に、八戸市の向陵高と千葉学園高の両バトン部が青森県合同チームとして出場。合同チームは総勢18人で出演し、ポンポンとバトンを使って演技を披露、スーパーバトン・バトンリリグ部門で最高賞の講評者特別賞を、バトン部門でグッドバトン賞を受賞した。合同チームのため、全員で練習する機会は少なく、大会に向けて両部で練習を集中的にできたのは直前の1週間。「チームで心一つにして臨んだ。受賞できたのは息の合った演技ができたから」と千葉学園の板垣さんは喜びを語った。</p>

	<p>八戸学院光星 東邦 (愛知) に9-10でサヨナラ負け</p> <p>(20) 第98回全国高校野球選手権の2回戦が8月14日に開催され、青森県代表の八戸学院光星と愛知県代表の東邦との試合が行われた。八戸光星は花岡小次郎の2点本塁打などで一時7点差をつけたものの、その後東邦の猛反撃を許した。9回、勝利まであと1アウトまで迫ったが、主戦櫻井一樹が4連打を浴びて力尽き、9-10でサヨナラ負けを喫した。サヨナラの瞬間、大盛り上がりの中の球場とは反対に、静まり返った応援団の三塁側アルプススタンド。しかし、最後は熱戦を終え整列したナインに、惜みない拍手が送られた。</p>
(21)	<p>五輪女子競技で史上初 伊調馨4連覇！</p> <p>リオデジャネイロ五輪第13日の17日、レスリング女子58キロ級の伊調馨が、決勝でギリシア・コラコロポロ (ロシア) に勝ち、金メダルを獲得した。階級区分変更前の63キロ級を含めて、女子が実施種目になった2004年アテネ五輪からの4連覇は、五輪全競技を通じて女子個人種目で初の偉業になった。伊調は「もったい試合がしたかった。相手がタックルに入ってきてくれたので、最後のチャンスだと思って、ここしかないと思って取りにいった。最後は (亡くおった) お母さんが助けてくれたと思う」と話していた。</p>
(22)	<p>伊調馨選手に市民特別栄誉大賞授与へ</p> <p>八戸市はリオ五輪レスリング女子58キロ級で優勝し、女子初となる五輪4連覇を達成した八戸市出身の伊調馨選手に市民特別栄誉大賞を授与すると発表した。同賞は伊調選手が2012年ロンドン大会で五輪3連覇を果たした際に創設、これまでの受賞は伊調選手のみで、今回が2度目となる。小林眞市長は「市民のみならず国民に大いなる勇気と希望を与えるもので、まさに市の誇り」と称賛。同賞について「われわれとして最高の賞」と述べるとともに「私としては国民栄誉賞が授与されることを期待している」との思いも語った。</p>
(23)	<p>「これかわ縄文まつり」開催 火おこしや土器作り体験に挑戦</p> <p>八戸縄文保存協会主催の「第21回これかわ縄文まつり」が8月21日、八戸市是川縄文館分館などで開かれた。子どもらが、当時衣服に用いられていた素材の布編みや縄文土器作りの体験に挑戦。火おこしのコーナーでは、懸命に棒を回転させて板をこすり、汗を流す子もいた。多くの親子連れらがさまざまな体験を楽しみなが、縄文時代の生活に理解を深めた。</p>
(24)	<p>八工大生 「南部裂織」未来へ伝えようと新工法に取り組む</p> <p>江戸時代から続く、八戸市などの伝統工芸「南部裂織」を未来へ伝えようと、八戸工業大の学生チームが電子機器を活用した新工法の開発に取り組んでいる。これまで古民家などに残された古い布を織り込んでいたが、古い布をカメラで撮影してデータ化し、印刷用の布に写し取るなどして古い布を再現。原料調達を容易にし、一般の人たちへの普及を図る。原料の加工もできるようになり、これまでにない新たな色彩や模様様の作品を生み出す可能性も秘める。8月20、21日には、一般参加型の体験会を「はっち」で開き、訪れた人が新工法の裂き織に挑戦した。</p>

あおもり びと 2016 青森人の祭典

東北復興大祭典 なかの



あおもり びと
青森人の祭典



10月29日(土)10:00~20:00

ねぶた運行 17:30~18:30

10月30日(日)10:00~17:00

ねぶた運行 13:00~14:00

会場 中野サンテラザ・広場、

JR中野駅北口暫定バスロータリー、

中野区役所1階区民ホール及び交関前広場 等

東北復興大祭典実行委員会

東京青森人会・中野区

青森県、青森市、東奥日報、ユーザー東北、陸奥新報、青森銀行、

みちのく銀行、青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森テレビ、

青森放送、青森朝日放送、青森県市長会、青森県町村会、青森県観光連盟 他

青森県各ふるさと会、青森県各高校同窓会支部

青森県東京事務所、青森市東京事務所、八戸市東京事務所、弘前市東京事務所、

東北七新聞社協議会

出店ブース

青森県の物産ブース・グルメブース・観光ブース、東北各地(岩手県、宮城県、

福島県、秋田県)のブース等 合計90ブース

来場者見込

250,000人~300,000人予定

熊本を応援しよう!

